

<研究名称>

心筋血流SPECT検査と冠動脈CT検査を用いた Fusion ソフトウェアの開発

<実施責任者>

循環器内科 西宮 孝敏

<研究期間>

2015年1月1日から2018年12月31日の患者データ

<研究の目的・意義>

放射性医薬品を用いた心筋血流SPECT検査は数十年にわたり、冠動脈疾患における心筋虚血の診断に日常臨床で広く利用されているが、心筋虚血の診断に迷う症例が存在することも知られている。一方、冠動脈CT検査は冠動脈の狭窄やプラークの性状が評価できるモダリティとして広く普及しているが、冠動脈CT検査では虚血量の定量評価は困難である。これらの冠動脈疾患に利用されている心筋血流SPECT検査と冠動脈CT検査を重ねあわせる（以下 Fusion という）ことで、虚血の範囲と狭窄部位を同時に評価できるため、心筋血流SPECT検査における読影困難例の減少も報告されている。しかし、Fusion させるには特殊なワークステーションが設置されていない施設が多いことから、Fusion を活かしきれていない現状がある。

そこで今回、放射性医薬品マイオビュー注シリンジ投与下における心筋血流SPECT検査で得られた画像と冠動脈CT検査で得られた画像を簡便に核医学検査室内で Fusion でできるような仕組みを構築し、虚血心筋に関わる冠動脈狭窄病変の位置情報と虚血心筋量を算出する指標を読影者に提供することで、診断価値を向上させる Fusion ソフトウェアを開発するためのプラットフォーム/トレーニング用データの提供を行うことを目的に、症例データを後ろ向きに入手しソフトウェア開発を行うこととする。

<実施内容（方法）・危険性（副作用）等>

上記研究期間までに撮像された心筋血流SPECT検査と冠動脈CT検査、心臓カテーテル検査のデータを後ろ向きに入手する。

<実施責任者・実施に関わる者の氏名>

循環器内科 部長 西宮 孝敏

医療技術部 放射線技師長 増田 安彦

放射線核医学技術係長 岡林 篤弘

<実施場所等>

放射線科

<倫理上問題になると考えられる事項等>

過去に撮像された心筋血流SPECT検査と冠動脈CT検査等のDICOMデータを匿名化して提供するので倫理上今題となる事項は発生しない。

<ICのための説明・同意に関すること>

なし。

<問い合わせ先>

当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ  
〒070-8530

旭川市曙1条1丁目1番1号

旭川赤十字病院 医療技術部 放射線科 岡林 篤弘

TEL 0166-22-8111

FAX 0166-24-4648